

第 24 回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウムプログラム

2010 年 7 月 2 日 (金) ~ 4 日 (日) 於) 日本大学軽井沢研修所

7 月 2 日 (金)

12:00 受付

13:00 シンポジウム **新型インフルエンザ H1N1 2009 パンデミックをふりかえって**
座長) 西村秀一 (仙台医療センター)、黒田和道 (日大医学部)

1. 新型インフルエンザ H1N1 ウイルスのウイルス学的検討のレビュー
五藤秀男 (東京大学医科学研究所) 【45 分】
2. 新型インフルエンザ H1N1 の病理像のレビュー
長谷川秀樹 (国立感染症研究所インフルエンザ研究センター) 【30 分】
3. 新型インフルエンザ H1N1 2009 パンデミックの血清疫学レビュー
高橋和郎 (大阪府公衆衛生研究所) 【20 分】

~~休憩~~

15:00

4. 基調講演

新型インフルエンザ H1N1 のわが国における流行と対策と課題~この経験をどう活かすか~

高山義浩 (元厚生労働省新型インフルエンザ対策推進室長補佐) 【50 分】

5. エビデンスという視点から見た新型インフルエンザ H1N1 pdm2009 パンデミック
押谷仁 (東北大学大学院) 【30 分】
6. 新型インフルエンザ H1N1 pdm 患者に対するタミフル治療の効果に関するレビュー
田村大輔 (自治医科大学さいたま医療センター小児科) 【30 分】
7. 新型インフルエンザ対策としての公衆衛生対応のレビュー: 特に学校閉鎖、休講措置について
神垣太郎 (東北大学大学院) 【30 分】

17:30 オリエンテーション

17:40 - 18:50 入浴時間

19:00 食事 意見交換会

20:30 夜の部 午後を受けての議論

座長 西村秀一（仙台医療センター）

新型インフルエンザに関する討論会

この企画は、それまでのシンポジウムでのレビューについて質疑応答で時間が足りなかった分や、もっと議論を深めたい点などについて夜の部として時間をとるものです。これは合宿形式の会の利点を生かす当交流会での議論の仕方のオリジナルの形に近いものです。本当の意味での”シンポジウム”で、時間をあまり気にせずビール片手にざっくばらんに話し合しましょう。

7月3日(土)

8:30 特別講演

座長)杉田繁夫(JRA 総研)

☆ 家畜の最重要疾病のコントロール -口蹄疫と鳥インフルエンザを比較して- 【45分】
迫田義博 北海道大学

9:15 シンポジウム 新型インフルエンザ H1N1 2009 パンデミックをふりかえって (続き)
座長) 信澤枝里 (感染研)、川上千春 (横浜市衛研)

8. 新型インフルエンザ (H1N1)2009 に対するワクチンの供給に至るまでの過程と課題 【45分】
板村繁之 (国立感染症研究所)

9. Oseltamivir-Resistant Pandemic A (H1N1) 2009 Influenza Virus 【15分】
杉山佳史 (慈恵医大医学科4年)

10. 新型インフルエンザ H1N1 ウイルスの系統的進化と糖鎖進化のレビュー 【60分】
森 愛 (神戸市環境保健研)・川上千春 (横浜市衛研)・高下恵美 (感染研)
・杉田繁夫 (JRA 総研)・信澤枝里 (感染研)

～～休憩～～

11:30 リアルタイムアンケートによるインフルエンザ研究者の意識調査
増田道明 (獨協医科大学)

12:30 昼食

14:00 - 17:00 レクリエーション(自由に交流を深めてください。)

加地杯 テニス大会

卓球大会

軽井沢銀座商店街旧軽井会(旧軽井沢)

<http://www.karuizawa-ginza.org/>

軽井沢プリンスショッピングプラザ

<http://www.karuizawa-psp.jp/>

交流の会の今後を考える会(講義室)

17:00 - 18:00 入浴時間

18:00- 19:00 食事

19:00 – 21:40

インフルエンザウイルスの遺伝子診断セミナー

【1 演題 20 分】

座長) 川上千春 (横浜市衛研)・杉田繁夫 (JRA 総研)

1. インフルエンザウイルス遺伝子検査法の比較検討 (PCR ラテラルフロー法)

○和山行正 1、福島喜代康 2 (1KOBAL 2 長崎諫早病院)

2. サイクリングプローブ法による薬剤耐性変異インフルエンザウイルスの検出

○鈴木康司 1、齋藤玲子 1、タティアナ バラノビッチ 1、クライド ダパット 1、ソル ダパット 1、
鈴木貴子 1、近藤大樹 1、鈴木宏 2 (1:新潟大、2:青陵大)

3. SmartAmp 法による 2009 pandemic A/H1N1 ウイルスの迅速検出:臨床研究の結果

○石川智久、川井雄輝、木村恭将、金森基、臼井健悟、石田尾武文、三谷康正、向後泰司、
花見健志、相馬崇裕、佐賀聡美、石津有里、J-E Morlighem、A Lezhava、林崎良英 (理研 OSC)

4. SmartAmp 法による 2009pandemic A/H1N1 ウイルスの迅速検査: primer 設計からキット開発

○川井雄輝、木村恭将、金森基、臼井健悟、石田尾武文、三谷康正、向後泰司、花見健志、
相馬崇裕、佐賀聡美、石津有里、J- Morlighem、A Lezhava、石川智久、林崎良英 (理研 OSC)

5. NASBA 法とその応用 (新型インフルエンザウイルス: pandemic (H1N1) 2009)

○西島 秀勝 ((株)カインス 学術部)

6. LAMP 法の基礎検討

○影山 努 (国立感染症研究所インフルエンザ研究センター)

7. LAMP法による新型(H1pdm2009)インフルエンザウイルス検出試薬キット、及び A 型インフルエンザウイルス検出試薬キットの臨床的有用性の検討

三田村敬子 1、山崎雅彦 2、○川上千春 3、清水英明 4

(1 永寿病院、2 座間小児科、3 横浜市衛研、4 川崎市衛研)

8. マルチプレックス PCR の基本

○ 林 仲信 (GeneWorld、聖路加国際病院)

7月4日(日)

8:30 - 10:00 一般講演 (1)

【1演題15分】

座長) 信澤枝理 (国立感染症研究所)、杉田繁夫 (JRA 総研)

1. 沖縄県宮古島市における新型インフルエンザ罹患率・受診率・入院率推定と流行像の特徴

○豊川貴生1、古謝由紀子2、島田智恵1、砂川富正1、谷口清州1

(1感染研感染症情報センター、2沖縄衛研)

2. 埼玉県における新型インフルエンザ(A/H1N1)検査状況

○島田慎一 峯岸俊貴 鈴木典子 丸木陽子 篠原美千代 内田和江 富岡恭子 河橋幸恵

(埼玉衛研)

3. インフルエンザウイルスの伝播について

○廣津伸夫(日本臨床内科医会インフルエンザ研究班)、長谷川貴大(塩野義製薬(株)解析センタ

ー)

4. 新型インフルエンザ流行中の同一患者での再感染について—迅速キット診断で、二度の感染が疑われた49例—

○萩原温久1、渡邊王志2、伊藤洋子2、西村秀一2 (1 萩原医院、2仙台医療センター臨床研究部ウイルスセンター)

5. 新型インフルエンザの集団発生が確認された高校における血清学的調査

○廣井 聡1、森川佐依子1、具 芳明4、宮川広実1、西村公志1、赤阪 進1、宮園将哉2、神谷 元3、八幡裕一郎3、古宮伸洋4、安井良則3、加瀬哲男1、高橋和郎1

(1大阪府公衛研、2大阪府、3感染研感染症情報センター、4感染研実地疫学専門家養成コース)

6. 三重県伊勢地域の小学校における新型インフルエンザの感染動態

○清水宣明(群馬大、大学院医学系研究科) 鈴木俊道、東友子 (三重県明和町立下御糸小学校)

～～休憩～～

10:45 - 12:30 一般講演 (2)

【1演題15分】

座長) 板村繁之 (国立感染症研究所) 、黒田和道 (日大医学部)

7. バキュロウイルス-タンパク質発現システムにより作製したH5型HAのsulfatideへの結合性

高橋忠伸1、佐藤紘彰2、高口仁宏1、高藤 俊2、横山英志2、藤井 敏2、○鈴木 隆1

(静岡県大薬 1生化, 2生命物理)

8. C型インフルエンザウイルスの増殖過程におけるCM2のPALMチン酸化の意義

○村木 靖^{1,2}、大桑孝子¹、古川孝俊²、松崎葉子²、菅原勤悦²、姫田敏樹¹、本郷誠治²、大原義朗¹(金沢医大・医・微生物¹、山形大・医・感染症²)

9. インフルエンザウイルスゲノムに働く自然選択圧

○鈴木 善幸 (国立遺伝研)

10. 重度免疫不全NOGマウスにおけるインフルエンザウイルス感染

○清水一史^{1, 2}、渡辺 哲^{2, 6}、佐々木 裕²、芝田敏克^{1, 2, 3}、西川 智子^{1, 2}、豊澤恵子^{1, 2}、田中寅彦⁴、黒田和道³、清水則夫⁵、山本直樹⁶、山本樹生^{1, 2}
(1日大・医・総医研, 2産婦人科, 3微生物, 4生化学, 5東京医歯大・難治研, 6感染研)

11. 臨床検体中に含まれるA/H1N1pdmウイルス量の内部標準を用いた解析

○門馬直太、北川和寛、菅野奈美、五十嵐郁美、柏原尚子、小黒祐子、平澤恭子、須釜久美子、大竹俊秀 (福島衛研)

12. 小型化学発光免疫自動分析装置でのインフルエンザ検出の検討

○高橋和郎(大阪府公衛研)、西村研吾、三澤修平、前野光生(東洋紡績株式会社)

13. シアロ糖鎖再構成赤血球を用いたインフルエンザウイルスの検出方法

○倉地浩隆 鈴木康夫 (中部大学)

12:30 総会

12:45 解散